

東海  
道中

孫東毛四編

上

~13  
4302  
7



13  
4302  
7



早稲田大学  
教育学部図書

湯北幸三郎先生  
守照山書

<2000-243>  
20518

題 藤栗毛四世扇巻首  
女方の何併、之役の親行、十六夜日  
北東園起行の類、世子行を多あれど  
時下役者の時代物、就身機あみの耳  
まをさといふせん、し膳栗毛の世記の  
ハ切所向を唐守として、血不屋をふ裁  
北ハ強吹、二枚の及外方子、東海及の引

乃其を用ひ、今四世伊子かうんで、  
の節を之とて、人物の終幕の、  
身と作る頻あり、作者の、  
えづれの、五木氏も、  
らう、右子出るるを、  
二番目子、  
結ぶる、

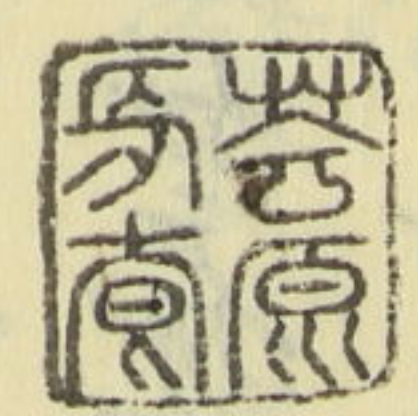
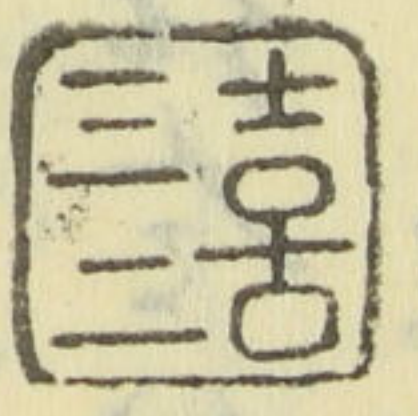
あしは、世界、  
中での、  
仕掛、  
あし、  
あし、  
あし、  
あし、

大名歌二歌合の評判記子身通

よしん

文化乙丑春 前黄表紙著作

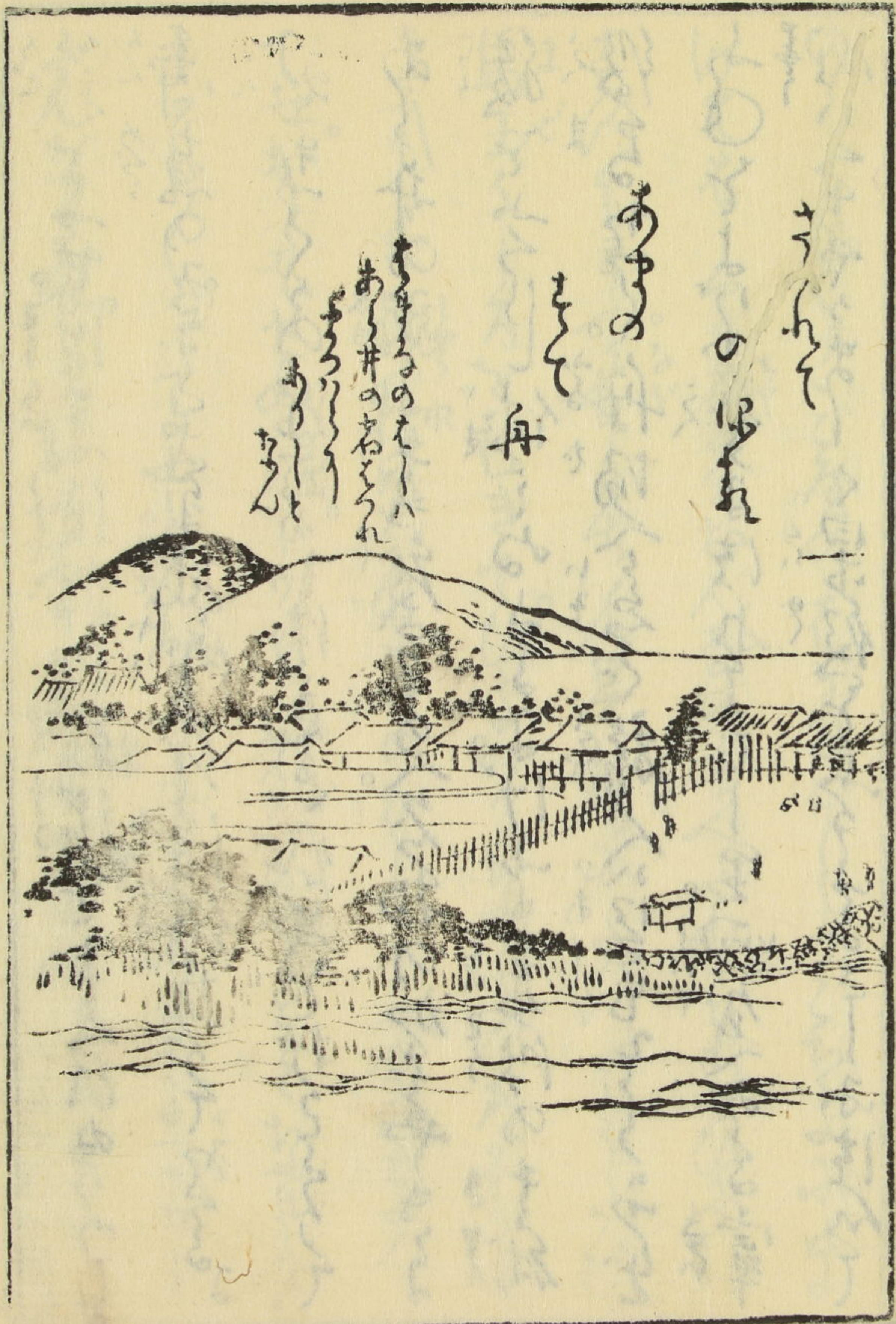
巻三三題于方葉末章



道中膝栗毛四編

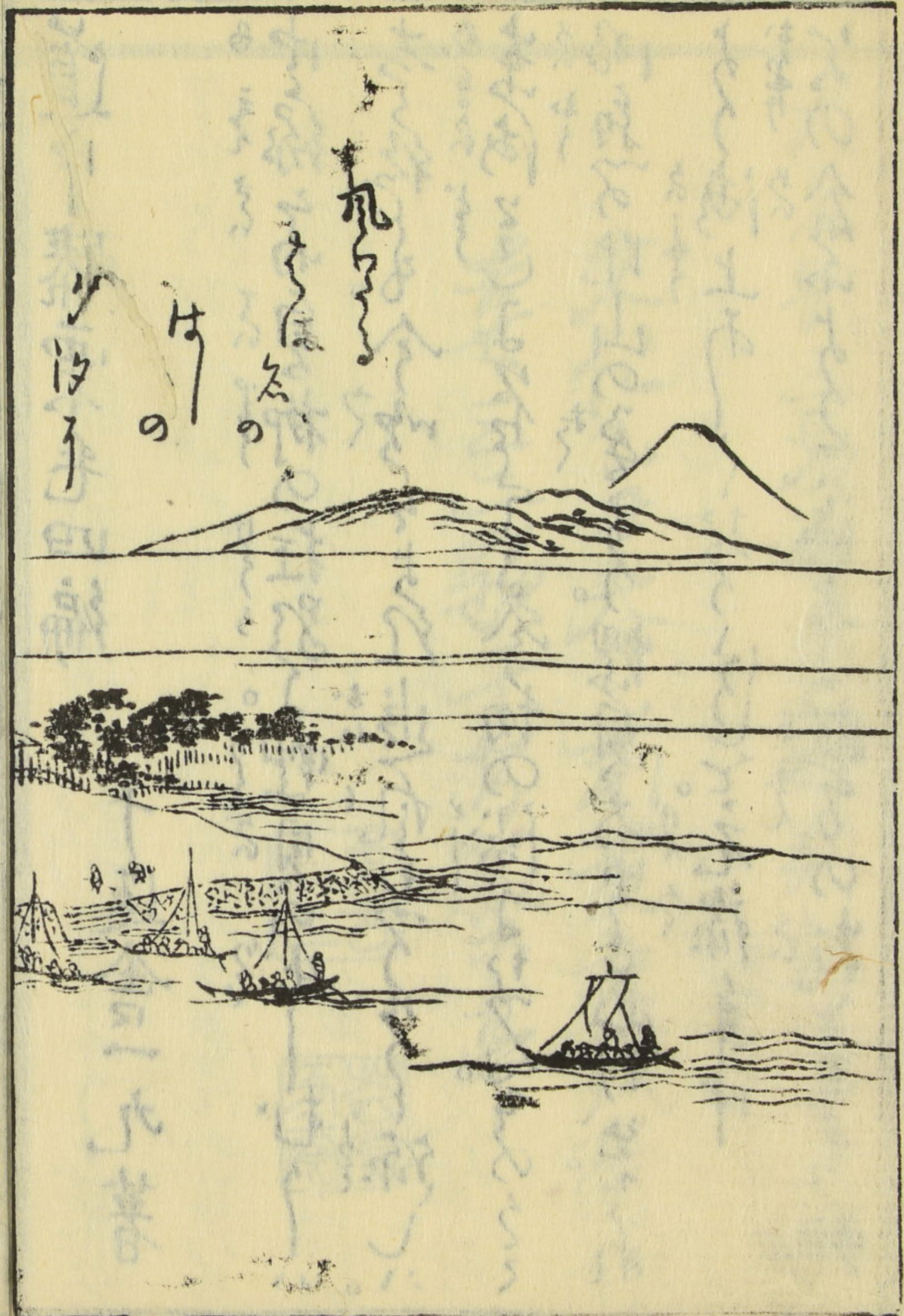
十返舎一九著

母ええまゐりていりし柳の狂歌は櫻貝の出しむりハ  
中縁より自ら柳の狂歌は櫻貝の出しむりハ  
去る程にも今吹々よれ追風ちうりて流しハ  
あまの海道は名なつる今切の海はなんそのとこ  
ういおう 崎新比山の妻より。櫻貝をあまこぬけ出され  
より海上ありくちういしと。元禄年中  
公の命ふより。海上に救方の標とらち。蛇



あまののちいハ  
あし井のちいハ  
あし井のちいハ  
あし井のちいハ

あまの  
舟  
のちいハ



あまの  
舟  
のちいハ





ひとつとらせといふのよや。やけりうちうんぞ。在中  
どちうやう ちんせん あら おも つて まう い は  
 ばきけのせせきども。おもつてまうの  
さうて  
 ぼもちあごころい。  
さうて  
 下におごりまもどが。ぞぞろい。  
は あ て く  
 きたるよが。信じてまもとまやき。牙たゆまの  
ま あ ん  
 をにもへおきける。  
い ま う  
く ま い  
 まどいてあうり。ぞぞら。ほまきりけんちま  
あ ま き ま い  
 一歩ハク一歩ハクもまもももももトとににぎぎりりハハせせめてて十十

ひとつとらせといふのよや。やけりうちうんぞ。在中  
どちうやう ちんせん あら おも つて まう い は  
 ばきけのせせきども。おもつてまうの  
さうて  
 ぼもちあごころい。  
さうて  
 下におごりまもどが。ぞぞろい。  
は あ て く  
 きたるよが。信じてまもとまやき。牙たゆまの  
ま あ ん  
 をにもへおきける。  
い ま う  
く ま い  
 まどいてあうり。ぞぞら。ほまきりけんちま  
あ ま き ま い  
 一歩ハク一歩ハクもまもももももトとににぎぎりりハハせせめてて十十



じくげしうきとらがおくまでござんりしきとの  
 手<sup>は</sup>に身たるは<sup>は</sup>依は<sup>は</sup>いりいりふとぞあやふじよ  
 一そくあると。いひもあやどまを好<sup>お</sup>戻<sup>も</sup>りて  
 まより<sup>海</sup>あふはしうりのまのるは。あわき下<sup>へ</sup>ふで  
 ありま<sup>や</sup>あむるこご。あ<sup>は</sup>私  
 も<sup>し</sup>じり<sup>し</sup>に<sup>し</sup>一<sup>し</sup>年<sup>し</sup>ねあ<sup>は</sup>さ<sup>は</sup>りて<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>こ<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>る  
 ま<sup>は</sup>で<sup>は</sup>何<sup>も</sup>も<sup>も</sup>ござんりませぬんごう。ま<sup>は</sup>りて<sup>は</sup>お  
 りて<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>年<sup>し</sup>本<sup>し</sup>後<sup>し</sup>も<sup>も</sup>を<sup>も</sup>ひ<sup>は</sup>りて<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>る<sup>は</sup>し。そ<sup>し</sup>て<sup>は</sup>又

今<sup>ら</sup>ん<sup>に</sup>も<sup>も</sup>ひ<sup>は</sup>りて<sup>は</sup>出<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>こ<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>る<sup>は</sup>し<sup>し</sup>ませ<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>ん  
 も<sup>も</sup>ち<sup>は</sup>ござんりませぬ<sup>は</sup>た<sup>は</sup>て<sup>は</sup>ぬ<sup>は</sup>か<sup>は</sup>お<sup>は</sup>い<sup>は</sup>身<sup>は</sup>た<sup>は</sup>さ<sup>は</sup>り  
 乃<sup>は</sup>が<sup>は</sup>切<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>る<sup>は</sup>や<sup>や</sup>い<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>り<sup>は</sup>せ<sup>は</sup>ぶ<sup>は</sup>もの<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>る<sup>は</sup>よ<sup>よ</sup>ひ<sup>は</sup>き<sup>は</sup>り<sup>は</sup>く  
 口<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>た<sup>は</sup>り<sup>は</sup>し<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>に<sup>は</sup>サ<sup>は</sup>ア<sup>は</sup>鞋<sup>は</sup>の<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>づ<sup>は</sup>あ  
 や<sup>は</sup>り<sup>は</sup>も<sup>も</sup>切<sup>は</sup>もし<sup>し</sup>あ<sup>は</sup>せ<sup>は</sup>ぬ<sup>は</sup>が<sup>が</sup>そ<sup>の</sup>う<sup>ら</sup>り<sup>は</sup>。私<sup>は</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>は</sup>も<sup>も</sup>拵<sup>は</sup>  
 ま<sup>は</sup>が<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>あ<sup>は</sup>り<sup>は</sup>ませ<sup>は</sup>ぬ<sup>は</sup>い<sup>は</sup>ぬ<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>さ<sup>は</sup>り<sup>し</sup>に<sup>は</sup>私<sup>は</sup>は<sup>は</sup>  
 縁<sup>は</sup>へ<sup>へ</sup>出<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>る<sup>は</sup>し<sup>し</sup>の<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>づ<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>り<sup>し</sup>に<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>る<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>  
 しか<sup>は</sup>ま<sup>は</sup>り<sup>し</sup>る<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>づ<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>り<sup>し</sup>に<sup>は</sup>私<sup>は</sup>は<sup>は</sup>  
 さい<sup>は</sup>の<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>づ<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>り<sup>し</sup>に<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>は</sup>づ<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>り<sup>し</sup>に<sup>は</sup>私<sup>は</sup>は<sup>は</sup>

ハイおせ入 十らの物とてさし出はし由くまがれより三人た  
るの所山をさし入りの山はなほあはれむ  
海をさし入るの山はなほあはれむ

文をさし入るの山はなほあはれむ

おせ入 せし

はあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

しあさうあてし向あよりく。さし入のなほあはれむ

出女の 顔うかの くらももりふめど

せふん くらももり 白しろまの 乃やじ宿

け 宿しゆくとちま 死し経けいわく 汐しを 飯いはさし くらもも

り ちまの 山やまづき ぬく 暮くふ 女おんなの 姿すがたは 湯ゆと

と 人ひとの 髪かみま さら ぬく ぬく ぬく ぬく

女おんなが 目めり の 汐しを 飯いはさし ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

けえ後

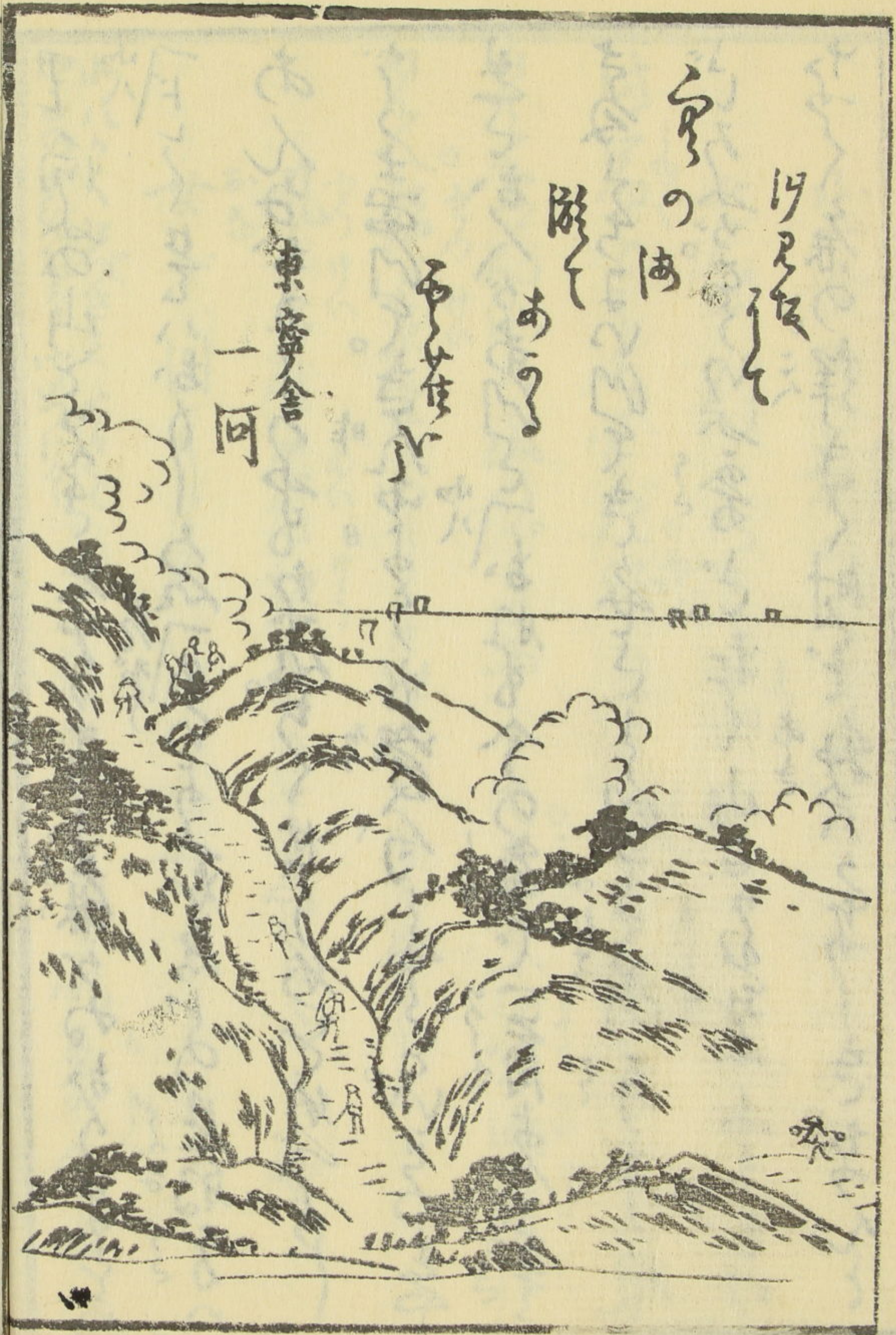
の海

遊

あつ

あつ

東宝舎  
一河



まじゆ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ





両例の差を分る。務人と見らば... 体なすうま。あつさるお吸物もおがう。... 五倍の者でほどもお飯でもあがう。... 高生め。なまうりして... ちげえでけり。... 雨の状、あがき、お、... くれり。

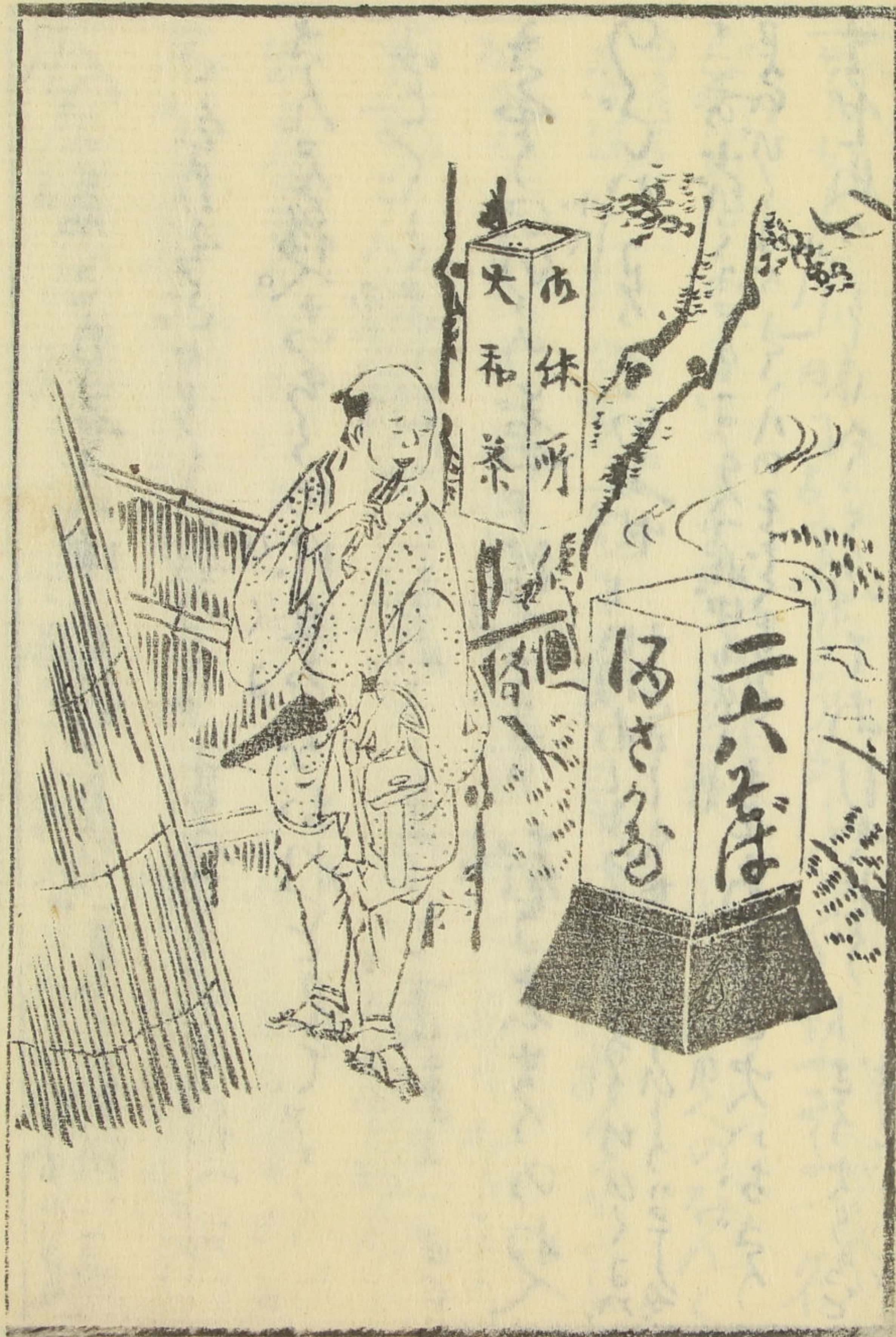
あつさるお吸物もおがう。... 五倍の者でほどもお飯でもあがう。... 高生め。なまうりして... ちげえでけり。... 雨の状、あがき、お、... くれり。

















うみを走りつて仕合ごアのい。ほろこのまきしとちりくいかめ入  
が何ア何何人の死なまきるよか伊勢いさなへまらうアままの  
アいまきまらうまけバ。おめ入いアいま強どの年々いまどの  
いなまらうごぶらよこのい糸いアいまとまのいまきま  
くいくいくいんいをいい。コレいアいアいアいたがいまいアいはいんい出いている  
まいまい後いれいッいありいやいてい千いをい揺いらいいいまい居いのいウい  
かいくいくい。それいでいハいアいよりいつい糸いごいアいのい糸いまいまいごいアいのい。柱い  
まいまいアいあいついたいどいめいとい時いまいれいるいよいあいやいしい。そのい公いを  
方いをい一いついついけいくいせいまいアい。今いでもいおいぢいけいよいついよいので  
おいぢい。ハいまいまいこいんい中い。そいんいらいういおいめいハいまい強いまいらいうい  
おい方いといまいこいれいでいおいぢいるい。まいまいハいまいこいれいごいもいがいまいまいハい  
江戸い志いをいやいがいまいでい天い邪いまいのい極いまいのいウい一いアいといがい。  
まいこいちいまいらいうい。まいないげいこいまいらいういまい。あいふいがいハい時い平いといやい  
まいまい出いるいやいついついあいるい人いどいのいがい洗いくいまいのいウいせいらいまいさいげいでい。  
まい邪いまいのい極いまいがい一いまいちいういまいやいまいをい時い連いまいのい  
ていおい出いやいらい。あいふいがいハいアいんい物いのいウい一いていおいるい。まいあいまい

くちもうつさぬくちもヤリい〜がんこえんどく浪なみの  
ちが〜。街門跡さぬのち〜〜やまさとよふ家いへ  
ごアの浪なみのごアのと。糸糸いとささアへすれち〜〜つて船ふね  
がまの。そこでハア足物の申〜。博くわのよみんと  
りよをぎんのや〜が。糸糸いとささアへけだていかめやア。  
よの志をやアち〜みふどく。あぜ大津さぬア時とき  
なが〜よせ〜の。家いへあか出ゆ〜。ち〜ち〜の  
あんま〜〜ア。足あしよかろ。おろぬくよめがぬ人あひとごア

あゆもろをゆさぬよ科しなアないぐふ志をぬとア〜  
て。ゆ〜とる糸いと〜とこえごア。大津さぬの志をぬぬや  
け博くわのよみぬがの。時ときどのいろ〜があら〜と  
あゆハア。ち〜いささのいづ〜もさをやアけのちカの  
あるせなア〜。ゆ〜も〜の〜げ〜。投あ物いのうせる  
人あ〜アあ〜。足あし物ものもくち〜〜。よみぬとよ〜と  
その時とき〜。ゆ〜ア志をよびし出〜。が〜と〜け。あ〜  
ハアあ村むら中なかのい名なんい〜。ち〜が〜あるさ〜。小こ〜らんでら〜ん



びくきつちとちひちさる。そしあせると。急に夜去の  
 時年どのハコリヤ。しましなむ。屍のウをちをちの  
 て。はんぬ遊ゲヤと。それうツ谷のーどしようまひ（あ合つけ  
 て。みやけ村へあど級去アられさる。後合のウー  
 て。早しむがそめぬの志をちさアでねえのらおつを  
 しあやとが。急にちあやよりうア。ちらよひるあどを  
 中ちヤと。トまやひちるてのまびきぶら。ちきんらしくちあ  
こひちろんあ。おわのちらぶるあだのくハあつれてはち  
あしまてまわ。ちま入まてハのちあきさる。ちちまがぶらして

ちやさき。はあまのまへの名おら  
 こつちも。佛よあふらーあまぶら  
 ちてはあさうよう。ち日もこふねたきちあぬれぶ。  
いそがちやちんそまごあ外あーーはまをちあてぶら  
ちちちまごちちまぶちひきん。ちちちあうちへ人のち死  
ゆまへちむれちちあちちまへクアの海ハ中ちるる宿で  
あうさちとち今あハちんちあせら。まねまてちらんちがまて  
ねちのち宿とちあせら。おち入さちひねさるる

御油甲山

及五彦

可

かまきハ

まじろ

まじろ

まじろ

甲山

水府

立波



赤坂袖の隣

佐保姫の

神のまじろ

のまじろ

赤坂のまじろ

まじろ

まじろ

本屋

安根



うらまがふまきせ入宿うら向ひの人と出させてお  
 きませうほろそれよりうらまきうら宿ハぞあでりうら  
 くのありとある肉あまきれまひのこころ山くこころ  
よりうけぬけてさねてけり。ほろがあとよりうらまきうらまきうらまき  
 伊仲のしゆくよりうらまきこころのまきあまきうらまきあまきうらまき  
 女うらまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 さねれを。ほろがまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 そのまきでまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 伊仲のまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 ほろがまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき

のまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 まつりませほろモシあまき赤坂まきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 十丁おざらがまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 ませ。けさねのまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 よくむ化されほろまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 うらまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 まきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
まきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき  
 ついとまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまき

たれしやアゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト

おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト

アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト  
アゴのい。おのれ出て見ろ。がら殺しとくぬよト











こころをいぢまじしとて 海をさぐるつらゆてあはれも ちさなる時  
は風もさざとあつゝたぬみよらふや。あひの あひの  
おこそゆでこころなれ おこ せん せん や や ころ ころ  
やうはー やうは ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
移 移 ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
このころ このころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
さ さ ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
今 今 ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ

かろ かろ ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
も も ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
又 又 ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
あ あ ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
そ そ ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
り り ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
か か ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ  
女 女 中 中 ころ ころ なる なる ころ ころ なる なる ころ ころ





致<sup>かく</sup>うち<sup>サ</sup>舞<sup>サ</sup>びて。おも<sup>サ</sup>ゆ<sup>サ</sup>ゆ<sup>サ</sup>ま<sup>サ</sup>よ<sup>サ</sup>ぬ<sup>サ</sup>る<sup>サ</sup>ま<sup>サ</sup>じ<sup>サ</sup>  
ま<sup>サ</sup>つ。は<sup>サ</sup>ら<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>洋<sup>サ</sup>の<sup>サ</sup>い<sup>サ</sup>ん<sup>サ</sup>ち<sup>サ</sup>ん<sup>サ</sup>と<sup>サ</sup>

道中膝栗毛四編上終

